

鈴木貫太郎の孫 平和への思い 永遠の平和を損なう共謀罪法案

陸軍の反対を押し切ってポツダム宣言を受け入れ、太平洋戦争を終戦に導いた総理大臣、鈴木貫太郎氏の孫の鈴木道子さん（85 歳、東京都文京区）が 15 日の東京新聞に登場した。

記事によると道子さんはミュージックペンクラブジャパン会長を務め、国会に提出された共謀罪法案に平和の危機を感じて、会として反対声明を出した。道子さんは戦後関宿（現野田市）に戻った貫太郎氏の臨終（満 80 歳）に立ち会い、「永遠の平和」と 2 回繰り返したことを覚えている（当時 16 歳）。

音楽評論家として今日まで過ごしてきた道子さんは当然平和への思いは強い。戦後 70 年の 2015 年 1 月の東京新聞では、都内で近所だった祖父の家に良く遊びに行った記憶を語り、「戦中でしたがすでに、日本をどう再建するかを考えていたのだと思います。関宿で酪農を広めたのも将来のことを考

えていたから」と話を続けている。

そして「祖父が首相になったときに、戦争を収めるつもりだったのか、促進する気持ちだったのかはよく議論になるところです。家族の立場から見ると、主戦派と和平派のバランスを取りながら腹芸で終戦に持ち込もうとした意志は明らか」と評価する。

その上で「辞世の言葉『永遠の平和』は、不穏な時代となった今、重いメッセージになっている」とまとめている。



衆議院議員会館前で 12 日

「テロ等準備罪」反対声明文

世界は極めて不穏な状況にあり、日本も戦後 70 年を過ぎた今、戦前を想起させるような右傾化の道を辿っていることを、私たちは深く憂慮しています。国会では 3 度も廃案になった「共謀罪」を政府与党が「テロ等準備罪」と名称を変えて再びその成立を目指しています。

この法案は、表向きはテロを未然に防ぐという名目で生み出されたものですが、その適用範囲は曖昧で、時の政権による恣意的運用を可能にしています。犯罪を目的としない思想、想像、表現にまで大きく網をかけ、捜査対象にされてしまう可能性があります。このまま法案が成立すれば、人々は委縮し、自主規制社会と、それに引き続く監視社会が到来することになるでしょう。それは日本国憲法で保障された集会の自由、結社の自由、そして私たちにとって最も切実な、言論表現の自由が侵されることに他なりません。

このような法律の制定は決して容認できるものではありません。

ミュージック・ペンクラブ・ジャパンは「テロ等準備罪」の名を借りた実質的な「共謀罪」の成立に強く抗議し、ここに反対の意を表明します。

一般社団法人 ミュージック・ペンクラブ・ジャパン会長
鈴木道子

拙速審査でも共謀罪法案衆院山場 連日国会行動 何としても阻止を

共謀罪法案が衆議院法務委員会
で今週山場を迎える。与党は取り
調べの可視化を検討すると付則に
入れる(だけの)修正案を自民、公明、
維新で合意したので、あとは数の

力でそれで押し切
ろうと構える。

なんとしても共謀罪を作らせまいと、先週から国会周辺で抗議行動が行われている。18日から19

日に衆院通過が強行されかねない。そのため表のような日程で抗議行動が続く。ご参加を。

日程	時間・行動					
16日・火	12時～13時	議員会館前行動	13時半～16時	同・座り込み	18時半～	日比谷野音集会・銀座デモ
17日・水	12時～13時	議員会館前行動	13時半～16時	同・座り込み	18時半～	議員会館前行動(1時間)
18日・木	12時～13時	議員会館前行動	13時半～16時	同・座り込み	18時半～	議員会館前行動(1時間)
19日・金	12時～13時	議員会館前行動	13時半～16時	同・座り込み	18時半～	国会正門前行動